


令和6年4月22日

## 滋賀県内経済情勢報告

(令和6年4月判断)

## 1. 総論

【総括判断】 「県内経済は、一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響等もあり、持ち直しのテンポが緩やかになっている」






項目	前回 (6年1月判断)	今回 (6年4月判断)	前回比較
総括判断	持ち直している	一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響等もあり、持ち直しのテンポが緩やかになっている	

(注) 6年4月判断は、前回6年1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

## (判断の要点)

個人消費は、回復に向けたテンポが緩やかになっている。生産活動は、一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響等もあり、一進一退の状況にある。雇用情勢は、持ち直しつつある。

## 【主な項目の判断】

項目	前回 (6年1月判断)	今回 (6年4月判断)	前回比較
個人消費	緩やかに回復しつつある	回復に向けたテンポが緩やかになっている	
生産活動	回復しつつある	一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響等もあり、一進一退の状況にある	
雇用情勢	持ち直しつつある	持ち直しつつある	
設備投資	5年度は前年度を上回る見込みとなっている	5年度は前年度を上回る見込みとなっている	
企業収益	5年度は増益見込みとなっている	5年度は増益見込みとなっている	

## 【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが景気の下押しリスクとなっている。また、物価上昇、一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響等に十分注意する必要がある。

## 2. 各論

### 【主な項目】

#### ■ 個人消費 「回復に向けたテンポが緩やかになっている」

百貨店・スーパー販売は、消費者の節約志向が見られるものの、客単価の上昇により売上は堅調に推移している。

コンビニエンスストア販売は、物価高の影響を受け、12、1月は前年比で売上減となり、足下でも客数が減少するなど、横ばいの状況となっている。

ドラッグストア販売は、化粧品や食料品の売れ行きが好調であることから、売上は堅調に推移している。

ホームセンター販売は、生活必需品以外の買い控えにより来店客数が減少していることなどから、低調に推移している。

家電大型専門店販売は、季節性商品や新生活家電の売れ行きが伸び悩んだことから、低調に推移している。

乗用車の新車登録届出数は、普通・小型車、軽自動車ともに前年を下回っている。

観光動向は、国内旅行を中心に客足が堅調であり、コロナ禍前の状況に戻りつつあることから、回復しつつある。

#### (主なヒアリング結果)

- 節約志向の高まりにより大容量商品やまとめ買いをする消費者が多く、買上げ点数の減少はみられるものの、値上げ効果により客単価が上昇していることから、売上は増加している。(百貨店・スーパー)
- コラボ商品などは高単価であっても売上は好調であるが、足下では、郊外や市街地の店舗を中心に客数が減少傾向となっているほか、おにぎりやお弁当など、物価高に伴い価格転嫁が続いた商品の売れ行きは悪くなっている。先行きについても、同様の状況が続くと見込んでいる。(コンビニエンスストア)
- 外出機会の増加に伴い、化粧品関連の売れ行きは好調となっている。また、スーパーやコンビニよりも安価で販売できる食料品の取扱いを増やすことで、売上を伸ばしている。(ドラッグストア)
- 能登半島地震の影響により防災グッズが好調となっているものの、物価高に伴う生活必需品以外の買い控えや他店との競争により、来店客数が減少していることから、全体的な売上としては前年比で減少している。(ホームセンター)
- 暖冬の影響を受け暖房器具の売上が低調であったほか、新生活に向けた白物家電についても例年より売れ行きが良くない。(家電量販店)
- 一部自動車メーカーの不正認証取得問題の影響等により、足下の売上は昨年比で減少している。(自動車販売店)
- 人流回復により客室稼働率が堅調に推移している。特に国内の個人宿泊客については、コロナ禍前よりも増加している。(宿泊)
- コロナ禍前と比較すると、客数は減少しているものの、値上げの実施により売上ベースでは上回っている。(飲食)

#### ■ 生産活動 「一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響等もあり、一進一退の状況にある」

鉱工業指数(生産)は、半導体製造装置の需要が旺盛である「生産用機械」などの業種が高水準で推移していることから、全体では100.0を上回る数値を維持しているものの、一部自動車メーカーの生産・出荷停止により「輸送機械」が大幅に下降しているほか、関連業種にも影響を及ぼしていることなどから、生産活動は、一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響等もあり、一進一退の状況にある。

#### (主なヒアリング結果)

- 半導体製造装置の需要は旺盛であるうえ、生産能力増強を行ったことなどにより、好調であった前四半期をさらに上回る受注額となっている。(生産用機械)
- 感染症予防効果のある医薬品の需要は堅調となっており、受注に生産が追いついていない状況。(化学)
- 一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響により、昨年12月末から今年2月にかけて同社向け自動車部品の生産を停止していた。(輸送機械)
- 一部自動車メーカーの生産・出荷は再開しているものの、再開したのは一部車種であることなどから、当社への受注が元通りになる時期は不透明となっている。(鉄鋼)

- サプライチェーンの関係でタイムラグがあることから、現時点では一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響は見受けられないものの、今後、当社が製造するガラス繊維の受注が減少する見込みとなっている。(窯業・土石製品)
- 親会社の取引先は中国の企業が多いことから、中国経済停滞の影響により受注が減少している。(業務用機械)

## ■ 雇用情勢 「持ち直しつつある」

有効求人倍率(受理地別)は、1.00倍を下回っており、新規求人数は前年を下回る水準となっている。一方で、有効求人倍率(就業地別)については、引き続き1.00倍を超える水準で推移しているほか、法人企業景気予測調査(1-3月期)では、製造業・非製造業ともに「不足気味」超となっていることから、雇用情勢は、持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 全体的に不足感があり、中途採用や外国人技能実習生の登用なども行っているが、欲しい人材が集まらない。(はん用機械)
- 人手不足を補うため、工場での勤務を交代制にしているほか、他部署からも応援に入ることに対応している。(化学)
- 全体的に見れば充足しているものの、部署によってはかなり不足しているところもある。また、人手不足に陥っている取引先企業からは、設備の自動化に関する相談が多く寄せられており、当社が製造している工作機械や省力機械への需要が高まっている。(生産用機械)
- 新卒採用には例年苦戦しているが、中途採用は人材紹介会社を活用して上手く採用できている。人材紹介会社の担当者から求職者へ当社を勧めていただけるよう、まずは担当者を招いて工場見学や待遇の説明を積極的に行うようにしている。(金属)
- 若手の人材が不足しているため、新卒採用を積極的に実施したいところであるが、勤務条件や賃金を理由に大手企業や官公庁へ流れていくことから、思うような人数を採用できていない。(建設)
- グループ会社との連携や短期アルバイトの活用により、運営はできているものの、全体的に不足感がある。(宿泊)

## ■ 設備投資 「5年度は前年度を上回る見込みとなっている」 「法人企業景気予測調査(全産業)」6年1-3月期

5年度の設備投資は、全産業で16.5%増(対前年度増減率、以下同じ)の見込みとなっており、産業別では、製造業で21.2%増、非製造業で11.3%増の見込みとなっている。

## ■ 企業収益 「5年度は増益見込みとなっている」 「法人企業景気予測調査(全産業)」6年1-3月期

5年度の経常利益は、全産業で29.0%(対前年度増減率、以下同じ)の増益見込みとなっており、産業別では、製造業で41.9%の増益見込み、非製造業で▲4.9%の減益見込みとなっている。

### 【その他の項目】

## ■ 住宅建設 「前年を下回っている」

新設住宅着工戸数で見ると、持家などが減少していることから、全体で前年を下回っている。

## ■ 公共事業 「前年を上回っている」

前払金保証請負金額で見ると、独立行政法人などで増加していることから、全体で前年を上回っている。

## ■ 企業倒産 「件数、負債金額ともに前年を上回っている」

倒産件数、負債金額ともに前年を上回っている。

## ■ 企業の景況感 「「下降」超となっている」 「法人企業景気予測調査(全産業)」6年1-3月期

企業の景況判断 BSI でみると、現状判断は「下降」超となっている。先行きについても「下降」超の見通しとなっている。

お問合せ先：大津財務事務所 財務課 TEL077-522-6455